



# みらいっうしん

7月号

2022年7月1日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 勝浦芳子

## 五感を育む遊び

年に一度だけ、天の神様に許しをもらって彦星と織姫が逢えるという神話にあやかって、天を見上げて、星に願いを込める七夕の季節が近づいてきました。今年も、新城小学校の笹をいただいて、短冊に願い事を書いたり飾り物を作ったりして楽しみます。すべての子ども達の願いと、一日も早い新型コロナウイルスの感染終息が叶うことを心から祈ります。

さて、まだまだ梅雨の蒸し暑い日々が続いている中ではありますが、元気いっぱい園生活を楽しんでいる子ども達は、『先生おはよう』『〇〇ちゃんおはよう』と保育室に入ってきては、「今日は何して遊ぼうかな?」と目をキラキラ輝かせています。泣いて登園するお友達もほとんどいなくなり、泣いていても、担任やクラスメイトの顔を見ると、ほっとするようで、涙はいつの間にか何処に…。みらいこども園が、安心できる場所になりつつあることにとっても嬉しさを感じます。また、保育者に、「先生!見て見て!」と自分の存在をアピールする子どもも増え、関わりや人の反応を楽しんでいます。規範意識も人との関わりから芽生え、ルールを理解できるようになりますので、大いに友達と触れ合って欲しいと思います。また、遊びに目を向けると、砂場遊び、水遊び、泥んこ遊び、泥団子作り、虫取り、花探し、カエル探し、青虫やカブトムシ、メダカなどの飼育、野菜づくりなど、興味を持つものは人さまざまですが、身近な自然に親しみながら、好みの道具を使って満足するまで遊びを楽しんでいます。この自然体験から生まれる感動は、とても大切で、命の気配に触れることで、五官(目、耳、鼻、舌、皮膚)が生き生きと活動し始め、五感(見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる)も、研ぎ澄まれていきます。活動の中でも、特に、土に触れることは、アーシングと言って、直接、裸足や素手で、地面や大地に触れると、体内の静電気が抜け、心地よさを感じ、情緒の安定や病気の予防と改善にも繋がり、人間の成長に沢山の候kがあると期待されています。人間の基盤を作る乳幼児期において、「物に対する興味関心」「気づく」「考える」「表現する」など、脳にたくさんの刺激を与える土遊びは不可欠と感ずります。子ども達は、毎日の体験から1つ1つ積み重ねながら、「生きる力」を養っていきますので、私たち保育者は、さらなる探究心をもって、次へのステップに意欲的にチャレンジできる環境を作っていきたいと思ひます。

7月は、七夕コンサートや夏祭りといったお楽しみがあります。子ども達の感動活動になることを期待いたします。